

プレスリリース(仮訳)

監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) が年次検査指摘事項調査の報告書を公表

2026 年 4 月 1 日

2025 年 年次検査指摘事項調査

IFIAR は、本日、6 大グローバル監査法人ネットワーク(GPPC ネットワーク)¹に加盟している監査法人に対して、IFIAR メンバー当局が個別に行った検査に基づく 14 回目の年次検査指摘事項調査の結果に係る報告書を公表した。過去の年次調査と同様、IFIAR は、個別監査業務に対する検査及び法人全体の品質管理態勢に対する検査の 2 分野の取組に関する情報収集を行った。52 法域の IFIAR メンバー当局が 2025 年調査に参加した。

2025 年調査における IFIAR メンバー当局の報告によると、検査を行った個別監査業務のうち、1 つ以上の指摘があったものは、2024 年調査の 34%に対し、35%だった。(IFIAR が 2014 年に当該指標の把握を開始して以降、) 指摘のあった監査の割合は、47%から、2022 年には 26%まで低下していたものの、その後は各年で増加に転じ、2025 年には 35%に達した。また、直近 3 年間の移動平均についても、30%から 33%へと上昇している。

IFIAR は、GPPC ネットワーク及びそのメンバーファームに対して、検査指摘事項の根底にある要因を特定するための取組を継続するとともに、監査品質の持続的な改善を確保するため、適切な是正措置を講じるよう求める。

本調査について

IFIAR の年次検査指摘事項調査は、監査法人の品質管理/マネジメント態勢及びシステム上重要な金融機関(SIFIs)を含む上場 PIEs の監査について、IFIAR メンバー当局の主な検査結果をまとめたものである。PIE 監査における検査指摘事項は、監査事務所が監査意見を裏付けるのに十分かつ適切な監査証拠を入手していなかったことを示す、監査手続上の不備である。しかし、必ずしも当該財務諸表に重要な虚偽表示があることを示唆するものではない。

メンバー当局の検査プログラムの集計結果の各年毎の変化が、必ずしも監査品質の継続的な変化を示すものではないため、IFIAR は、調査結果の全体的な傾向を長期的にモニターしている。さらに、本調査結果は、監査法人による監査品質改善の進捗を測定する唯一の要素ではない。IFIAR メンバー当局の検査はリスクベースの手法を取っているため、年間を通じて、必ずしも全ての監査事務所や品質管理/マネジメント項目、保証業務を代表するサンプルを選んでいるわけではない。

監査品質を向上させる責任は監査法人にあるが、IFIAR は、メンバー当局の権限に基づく監督能力を向上させ、また、より高品質な監査の実現のため、GPPC ネットワークと定期的に対話し、

¹ (公認会計士・監査審査会事務局注) Global Public Policy Committee networks : BDO、Deloitte Touche Tohmatsu、Ernst & Young、Grant Thornton、KPMG 及び PricewaterhouseCoopers

働き掛けを行うといった様々な活動を通じて、グローバルに一貫した高品質な監査に向けた発展に影響を与えることに努める。

IFIARについて

監査監督機関国際フォーラム(IFIAR)は、2006年に設立され、アフリカ、北米、南米、アジア、オセアニア、ヨーロッパの56の国・地域の独立した監査監督当局で構成されている。その使命は、グローバルに監査品質を向上することにより、投資家を含む公益に資することである。IFIARは、世界中の監査品質や規制実施について、対話や知見の共有ができるプラットフォームを提供し、規制活動における協調を促している。IFIARの公式のオブザーバーは、バーゼル銀行監督委員会(BCBS)、欧州委員会(EC)、金融安定理事会(FSB)、保険監督者国際機構(IAIS)、証券監督者国際機構(IOSCO)、公益監視委員会(PIOB)及び世界銀行である。IFIARに関する更なる情報については、IFIARウェブサイト(www.ifiar.org)を参照されたい。